

## 「いわての復興教育推進事業（いわての復興教育スクール〈沿岸〉）」成果報告書

学校名：岩手県立宮古高等学校

**I 事業の概要（地域の実情含む）**

東日本大震災による本校自体の大きな被害はなかったが、通学する生徒の多くが被災し困難な生活を強いられてきた。市の中心部に位置しており、生徒は日々復興復旧の様子を目にしながら通学している。また、平成30年10月に市の新庁舎が市中心部に完成したことは、復興の象徴となっている。このような状況から、地域のセンタースクールとして地域の復興を担う人材育成が期待される本校で、地域社会における自己の生き方在り方を考えさせ、その役割を責任持って果たす姿勢を育成し、地域に貢献しようとする態度を育てる取り組みをしてきた。また、地域社会の中で課題を発見し解決する方法を探る中で、更なるローカルアイデンティティを養わせたいと願いながら実践した。

**3 外部講師による講演会（1学年）**

6月24日地域理解のための課外活動（インターンシップ）に向けた事前指導として、宮古市産業支援センターの協力により、宮古市産業創造アドバイザー クロイワ正一氏に、インターンシップの意義や、進学・就職のその「その先」を考えることの大切さを学んだ。

**II 取組の概要****1 外部講師による講演会および授業（1・2学年）**

計5回にわたり、東北学院大学特任准教授 菊池広人氏を招聘し、探究活動に関わる講演会や授業を実施し、自ら「探究」する生徒の土台作りを行った。

**4 地域課題に関するポスターセッション（2学年）**

7月8日に各カテゴリー毎にポスターセッションを行い、代表グループを決定し、7月22日学年全体の場でプレゼンテーションを行った。

**2 地域の方々との座談会（2学年）**

- 5月27日 宮古山口病院
- 6月17日 宮古市役所（企画・防災・観光・学校教育 各部署）
- 6月24日 養護老人ホームサンホームみやこ

2学年全員が自分の探究テーマに関わる座談会に参加し、現場の生の声を聞き、地域の現状への理解を深めた。

**5 地域理解のための課外活動（1学年）**

7月25日～31日うち1日間、1年生全員が管内約40団体の協力を得てインターンシップを行い、生徒自身が様々な活動を通して協調性・自主性・責任感を身につけながら地域理解を深め、更なるローカルアイデンティティを養った。



6 地域理解のための課外活動発表会（1学年）

夏休み中に実施したインターンシップ活動報告を元に、クラス内でインターンで学んだこと、仮説検証の結果などを発表し合った。その後文化祭にて報告書を提示した。受入先の方々が文化祭へ足を運ぶきっかけとなった。

くらしネット宮古

<p><b>はじめに</b></p> <p>宮古地域にはこれからの町を築いていく若者たちがいる。そんな未来の担い手を育てる機関としてのくらしネット宮古が活動しているのを知り、疑問がわきました。事前学習では自然の取組を知ることで学習支援の大切さを改めて感じました。</p> <p><b>1. 事前学習</b></p> <p>この夏休みにして学習支援を行って、その間に疑問に感じたことを質問したいです。インターンシップで学んだことを発表し、疑問を解消したいです。また、学習支援は子供達の自立を促すこと、自立を促すことが目的です。また、自立を促すことが目的です。また、自立を促すことが目的です。</p> <p><b>2. インターンシップの詳細報告</b></p> <p>10:00~11:30 学習支援 小学生の子供達の宿題を教える。</p> <p>11:30~12:00 工作 子供達と一緒に工作をし、コミュニケーションを図る。</p> <p>12:00~13:00 昼食 一緒に昼食をとり、子供達について知る。</p> <p>13:00~14:30 運動 公園で一緒に体を動かす。</p> <p>14:30~15:00 学習支援 終了</p>	<p><b>まとめ</b></p> <p>くらしネット宮古では、学習支援、芸術活動などの面で子供達に支えている。また、学習支援は子供達の自立を促すこと、自立を促すことが目的です。また、自立を促すことが目的です。また、自立を促すことが目的です。</p> <p><b>3. 考察</b></p> <p>今回のインターンシップで学習支援の大切さを改めて感じました。また、学習支援は子供達の自立を促すこと、自立を促すことが目的です。また、自立を促すことが目的です。また、自立を促すことが目的です。</p> <p>1. 学習支援の重要性を再認識した。 2. 自身の限界もつくせよう。</p> <p><b>4. これから</b></p> <p>高校生でいるうちに5か年ほどでできることを決める。また、高校生でいるうちに5か年ほどでできることを決める。また、高校生でいるうちに5か年ほどでできることを決める。</p>
---	---

7 地域理解のための講演会

10月28日宮古市長山本正徳市長を招き、宮古市の現状と今後の展望を講演いただき、更なる地域理解に努めた。また、宮高生に期待することを話していただき、地域や社会での生き方在り方を考えるきっかけとなった。直接生徒からの質問にも気さくに答えていただき、いい時間となった。



III 取組の成果と課題

1 成果

- (1) 小中学校まで行われていた地域理解の活動を、高校でも途切れることなく行うことができ、更なる地域理解と地域への関心意欲を高めることができた。
- (2) 地域の方から責任を与えられ、高校生の自分でもできることを発見し、地域での自分の在り方を実感することができた。
- (3) 地域の方々から「勉強で忙しい」という本校生徒の印象が変わり、好意的な印象を持ち、更なる地域での活躍を期待されるようになった。目指す学校像として掲げる「地域のリーダー(復興の担い手)育成」の一助となった。

2 今後の課題

- (1) 次年度以降の持続可能な計画
- (2) 課外活動するための時間の保証